

## 第3回 JR加古川線（西脇市－谷川間）維持・利用促進WT会議 議事録

- 1 日 時 : 令和4年11月28日(水) 13:00~14:45
- 2 場 所 : 西脇市役所3階会議室
- 3 出席者 :
  - 沿 線 市 西脇市都市経営部長、西脇市産業活力再生部長、丹波市ふるさと定住促進課長(代理)、丹波市産業経済部長
  - JR西日本 兵庫支社担当課長
  - 交通事業者 (株)ウイング神姫取締役
  - 観光事業者 神姫バス(株)地域事業本部副本部長(代理)
  - 利 用 者 西脇商工会議所専務理事、丹波市商工会事務局長、西脇高等学校長、氷上高等学校教頭(代理)、西脇連合区長会会長、丹波市自治会会長
  - 兵 庫 県 北播磨県民局県民交流室長、丹波県民局県民交流室総務防災課班長(代理)
  - オブザーバー 企画部総合政策課主幹、土木部交通政策課副課長、同課主幹

### 1 開会

### 2 報告

#### ○アンケート等

- ・これまで提案のあった利用促進策のうち、連携が必要なものや効果が見込めそうな取組(サイクルトレイン、テスト期間等の終業時間帯に合わせた増便、ICOCAの導入、通勤定期等への補助)について、高校生へアンケートを実施した。
- ・アンケートの結果4項目のいずれでも半数以上の生徒が乗りたいとの意向を示し、ICOCA導入でも「ぜひ乗りたい」との回答が多かった。また、日頃利用していることへの感謝、路線維持への切実な思いも確認できた。
- ・11/15利用実態調査では9往復18便で全体270人の利用があり、約3割の高校生利用を確認した。

### 3 議題

#### (1) JR加古川線WT検討結果報告書案について

- ・これまでに委員が選択した取り組むべき利用促進策を①日常利用の促進 ②観光需要の増進 ③まちづくりと一体となった魅力創出 の3つの項目で再整理し、アンケートや、若者の意見交換会等の結果を踏まえ、地域に応じた利用促進策の中で、意見の多かった取組を報告書にまとめた。
- ・報告書については取り組むべきと考えている内容で作成しており、必ず実現するというものではないが、検討の材料として提起している。
- ・また、このWTについては、地域の特殊事情についても考慮して検討を進めることが求められており、アンケートや意見交換会を通して分かった地域住民等の心理的な特別事情や、駅カルテを作成する中で見えてきた物理的な特別事情についても報告書へ掲載している。

## (2) 駅周辺の活性化事業について

### ①黒田庄駅

黒田庄駅には交流拠点施設あつまっ亭が地域の活性化を図ることを目的に設置されており、黒田庄まちづくり協議会管理の下、感謝祭をはじめとした、チャレンジショップ、ハイキング、自然環境体験等のイベント、地域の郷土料理の販売など地域をあげて取り組んでいる。

### ②谷川駅

駅前の遊休地等を活用して、地元の食や歴史や人の魅力発信、市場、物販等の出店といったマルシェを開催し、約1,000人の来場者が集まり好評だったことから、来年度については、久下村駅との連携や地元小学校発案のイベント企画なども検討している。

## 4 意見交換

### ①日常利用の促進

通勤通学をターゲットとした利用促進策についての意見が多く、定期券購入補助や駅周辺駐車場の利用補助実施の検討や、通学自転車を乗せるサイクルトレインの実施についての要望などがあがった。サイクルトレイン実施については、車両の手配や安全面、広報など課題が多いとの指摘があがった。

また、サービス向上を求める意見もあがり、ICカード精算機の導入や駅におけるトイレや待合室の完備、福知山線との乗入れ、加古川方面からの直通列車の増便など、これまでにを行ったアンケートや若者の意見交換会でも要望が多い取組が取り上げられた。

(主な意見)

- ・電化の観点から、福知山線の乗入れ、直通便や加古川方面からの直通列車の増便(アンケートからも意見あり)を検討してほしい。
- ・高校生アンケートで要望の多い通勤通学者の定期券購入補助、周辺駐車場利用者補助について検討を進めたい。
- ・当該区間の利用者だけが紙定期で、ICカード精算機の導入を強く望んでおり、導入に向けて進めてほしい。
- ・列車の待ち時間が長いので、せめてトイレや待合室は設備として整えてほしい。
- ・サイクルトレイン実施のために必要となる車両の手配について、加古川線の電化による事業効果として、気動車より電車の方が保有車両数が多く、調達しやすいということからリダンダンシー機能が高まるという話があったが、加古川線以外からも電車を回せないか検討してほしい。
- ・サイクルトレインについては2両編成にする必要がある(予備車使用)、西脇市駅より南側での臨時増結ができなくなること、増結の費用負担やルール改正、自治体による見守りの支援、乗客への周知、アンケート等など実施に向けた課題が多くある。

### ②観光需要の増進

これまでのWTでも兵庫DC、大阪・関西万博を見据えた検討も行っており、改めて、この機会は大きな集客チャンスであるとの意見が多く出た。そのため、駅周辺の観光・体験コンテンツの発掘、ブラッシュアップに力を入れていき、兵庫DC、大阪・関西万博に結びつくような仕掛け作りが必要だとの認識を共有した。

(主な意見)

- ・これまで、兵庫DC、大阪・関西万博を見据えた検討も行ってきたので、その点ができるように報告書を整理すべき。
- ・兵庫DC、大阪・関西万博は大きなチャンスで、それらに結びつくような仕掛けづくり、観光・体験コンテンツの発掘、ブラッシュアップに力を入れていきたい。

- ・万博等でも加古川方面からでは姫路市に行ってしまうので、福知山方面から西脇市に来るように検討していく必要がある。
- ・駅の簡素化や沿線企業の不在という課題について、比延・久下村等で風景を生かしたフラワーガーデン、小豆島で行われているような常設の芸術作品展示、市有地の市民農園としての活用、JR東日本で取り組んでいる駅前でのグランピング・サウナ等も検討してほしい。
- ・WESTERを活用して、地域の魅力や観光地の情報発信、スタンプラリー等行っていければと思う。

### ③まちづくりと一体となった魅力創出

地域住民の問題意識が希薄であるとの意見があがり、沿線のみならず市全体での意識の向上が必須であると認識を共有した。そのために、駅周辺の活性化やサポーターの立ち上げ、地場産業のコラボなど、地域を巻き込んで鉄道周辺を盛り上げる意見が多く出た。

(主な意見)

- ・丹波地域の若者が集まったユースチームを開催しており、電車利用をテーマに検討しているグループもあるので、今後情報共有していきたい。
- ・駅周辺の土地を活用したイベント(マルシェ等)は、地域にお願いしつつ、積極的に取り組みたい。
- ・地場産品を活用した列車の装飾は高校等と連携しながら進めていきたい。
- ・農業高校として生産、加工、販売等行っており、イベント等関わっていきたい。
- ・住民意識の低さを懸念しているので、沿線のみならず市全体で共通意識を持っていきたい。

### ④その他

利用促進の取組を行う上で、「輸送密度〇〇人」といった目標設定やPDCAサイクルの実施などの必要性がJRから指摘され、そういったもう一歩具体的な検討を行うためにも、今後も協議の場を継続してほしいと要望があがり、協議の場を継続する方向で認識を共有した。

また、今後、国の協議会や財政支援等の動向を注視しながら、利用促進策とともに地域にとって望ましい公共交通の在り方の議論の必要性を訴える声や、そもそも輸送密度を目標に設定するならば、どのような計算方法であるのか提示すべきといった意見もあがった。

(主な意見)

- ・検討協議会(RT)で各WTからの報告を元に今後の取組について議論されると思うが、WTの存続は別として、さらに深度を深めるための事業化に向けたこのような場は必要である。
- ・環境整備を含むハード面に関しては中長期的な話であり、加古川線の存続が前提。災害対策強化の意味合いも込めた全線電化という投資もしており維持を前提にお願いしたい。
- ・学生等の若者が地域課題について検討するいい機会となり、使ったことがないという者も含めて、全体で危機感を持って取組んでいきたい。
- ・当該区間は1時間に1本までしか運行できないという話もあったが、黒田庄の行き違い設備を再び使えば30分に1本もできるのではないかという意見もある。
- ・維持を訴えるには、まずは利用者の増加傾向を生むことが大切で、目標設定、効果の検証、PDCAサイクル等が必要である。
- ・当該区間の収支が合うまで利用者を確保するのは難しく、上下分離など現実的に検討する必要がある。
- ・鉄道の大量輸送という特性が発揮できておらず、今後、国の協議会や財政支援等の動向

を注視しながら、利用促進策とともに地域にとって望ましい公共交通の在り方の議論が必要である。

- 輸送密度を目標値にという話もあったが、輸送密度の計算方法について教えてほしい。
- 2024年度に東播磨南北道路、2026年に国道175号線バイパスの完成など、道路面の整備が進められている。
- 利用人数と列車本数については、利用が減っていく中でも一定の列車本数を維持してきたが、沿線人口の減少もあり、利用が大きく減少しているため列車本数を減らした。さらに今後に向けて、公共交通の在り方議論が必要だという課題提起をさせていただいた。

## 5 閉会

- この会議については県が設置した検討協議会(RT)をもとに、地域住民の日常生活や観光・交流による地域活性化に欠くことのできない路線を維持するため、地域の実情・課題を踏まえて利用促進策を官民で連携しながら検討するために設置された。
- JR単体での企業努力では限界に来ているという話もあったが、公共交通機関であるJRをどのように盛り上げていくことができるか、アンケートや、若者の意見交換会を開いたり、委員の方々の意見を通じて情報共有含めて検討してきた。
- 予算面・人的な面など課題はあるが、いただいた意見を参考に検討結果報告書を再整理し、検討協議会(RT)へ報告していきたい。